

健全育成シリーズ(153)  
良き舞台人の養成を目指して



わたしは、子どものころ、学校の先生というと、どこか普通の人とは違う威厳のようなものを感じ、幼心にも尊敬の対象として敬っていたと記憶しています。それですから、先生のおっしゃることであれば、無条件に従って何の異論もなかったのです。

ところが、最近、教師と生徒の関わり方が大分様変わりしてきているように感じられます。

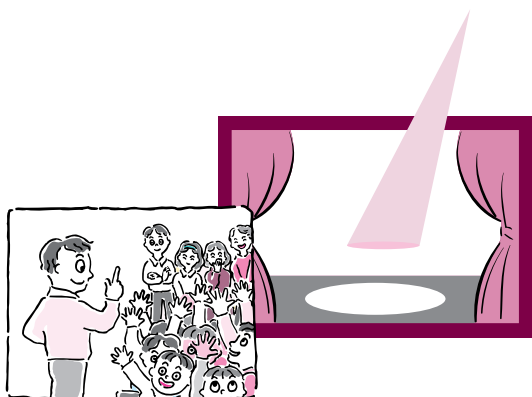
子どもたちが、進んで教師の指導に従い、友だちと関わりながら豊かな集団生活を成立させ、「一人はみんなのために、みんなは一人のために」の精神を培う格好の舞台を学校が準備してくれているはずであるのに、なかなかその舞台で自分を表現しきれないでいる子どもが目につくのはわたしだけでしょいか。この機

会にそのことに思いを馳せてみたいと思います。

子どもたちにとって、学校が舞台であるとしたならば、家庭は、晴れの舞台に立つための準備を整える楽屋に相当すると思われるのです。一日中、舞台の上で共演者とともに精一杯頑張った子どもたちは、夕方になると、それぞれの楽屋に帰り、そこで休養と栄養補給と団欒<sup>だんらん</sup>を通して、エネルギーの充電を行い、また舞台上上がるのです。ところが、この楽屋の在り方こそが、良い舞台を作るか否かの分かれ目になるのかも知れません。なぜならば、楽屋としての家庭は、本来、基本的なしつけを施し、心身の欲求を満たし、最高の演技ができる土壌を用意するべきだと思ふのです。楽屋がしつかりしていないと、いくら演出家が頑張っても良い舞台が仕上がりにません。楽屋でのストレスを舞台で発散しようとしたり、楽屋で満たされない欲求を舞台に求めるのでなく、演出家を信頼し、尊敬する忠実さの中に、目を

見張るような舞台が完成するのではないかと思います。価値感の多様化された現代、「舞台」としての学校、「楽屋」としての家庭、双方の果たすべき機能を再認識し、登場人物すべてにスポットライトが当たる、輝きのある舞台を作り上げていきたいと思います。

「親が変われば、子どもも変わる運動の推進」が提唱されていますが、まさに好機といえるでしょう。



メイク・アクションつる ふるさと自慢づくりコンテスト(お菓子部門)の作品

都留市では、産業及び地域の活性化を図るため、産業のまちづくり『メイク・アクションつる』を掲げその一事業として産業まつりに『ふるさと自慢づくり』と題して、主に地元で生産された農林産物などを利用したお菓子づくりコンテストを実施しました。多数出品されたお菓子は、どれも甲乙つけがたい見事なお菓子でした。今回は都留市上谷の石川瑛子さんの作品で、ふきの風味を生かした簡単でおやつにぴったりなお菓子です。

|       |           |
|-------|-----------|
| 1 本分  |           |
| エネルギー | 71キロカロリー  |
| タンパク質 | 0.5グラム    |
| 脂肪    | 1.9グラム    |
| カルシウム | 19.9ミリグラム |

《材料》

|        |        |
|--------|--------|
| ふき     | 400グラム |
| チョコレート | 140グラム |
| 砂糖     | 250グラム |



ふきチョコ

《作り方》

- ①ふきの皮をむき、10cmに切りそろえ、さっと湯がいてあく抜きをします。
- ②鍋にふきと砂糖を入れ、煮ます。(ふきの風味を生かす様に、からからに煮過ぎないようにします。)
- ③チョコを湯煎で溶かし、②をからめて冷やします。